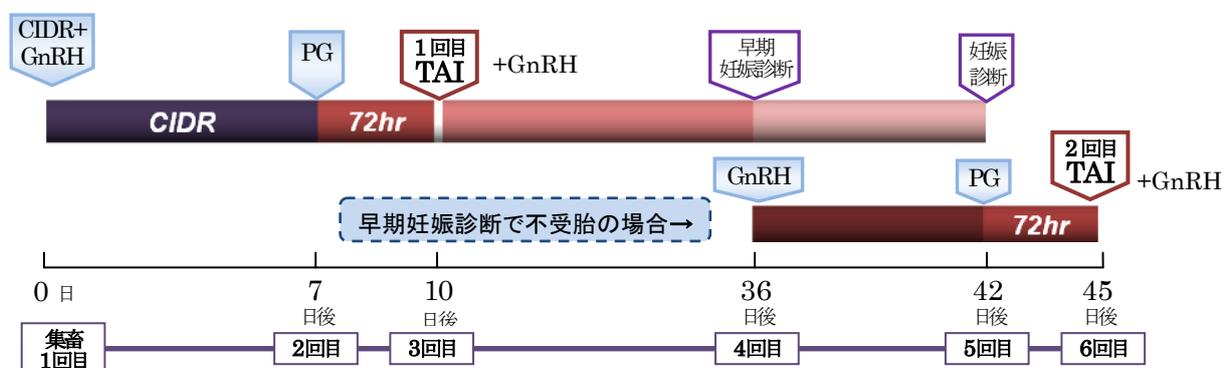


## 放牧牛の繁殖管理を大幅に省力化できる繁殖プログラム

公共牧場などの広大な放牧地で日常的に繁殖管理を行うためには、放牧牛の発情の発見や放牧牛を集めるなどの作業を頻繁に行う必要があります。これらの作業負担の軽減が課題となっています。そこで、ホルモン製剤による排卵同期化処理と早期妊娠診断を組み合わせ、短期間で効率的に受胎を確保することができる放牧牛向け繁殖プログラムを開発しました。

### ☆ 技術の概要

1. 本プログラムは、ホルモン製剤を利用して一定時間内に集中して牛の排卵を誘起する排卵同期化処理と定時人工授精（TAI）の後、通常より早期に妊娠診断を行い、受胎が確認されなかった牛に対して2回目の排卵同期化処理とTAIを行います（図）。このプログラムでは、毎日の発情観察等の作業が不要で、1回目の排卵同期化処理から2回目のTAIまでの期間は45日で、放牧牛を集める回数は6回だけで済みます。
2. 本プログラムを放牧条件下の黒毛和種育成牛・経産牛とホルスタイン種育成牛に適用した場合、2回のTAIによる妊娠率はいずれも8割以上となり、現状の公共牧場より高い妊娠率が確保できます。
3. 本プログラムの放牧牛を集める回数6回は、一般的な発情観察による繁殖管理方法と比較して大きく軽減され、総作業時間も大幅に短縮されます。また、繁殖管理コストは20%程度軽減できます。



### 図 開発した繁殖プログラム

GnRH：性腺刺激ホルモン放出ホルモン（酢酸フェルレリンとして 100μg）  
 CIDR：陰内留置型プロジェステロン製剤  
 PG：プロスタグランジンF<sub>2α</sub>（クロプロステノール 0.5mg）  
 TAI：定時人工授精

排卵同期化を実施するためのホルモン製剤

### ☆ 活用面での留意点

1. 本プログラムを実施する際には、薬剤投与と早期妊娠診断を獣医師に依頼する必要があります。
2. 詳細については、畜産草地研究所・情報広報課（電話：029-838-8611、問い合わせフォーム <https://www.naro.affrc.go.jp/nilgs/inquiry/tech.html>）にお問合せください。

（農研機構畜産草地研究所 草地管理研究領域 手島茂樹）